

宇土市立宇土小学校

正会員 小 嶋 一 浩 君
正会員 赤 松 佳珠子 君
正会員 山 雄 和 真 君
正会員 新 谷 眞 人 君

「くまもとアートポリス」事業の一環として実施された小学校の全面立て替えによって、企画、設計、施工されたプロジェクトである。2階建ての長く伸びるスラブラインと全面解放可能な天井まであるアルミ折戸によるシンプルなファサードが印象的な建物である。

空間計画では、多様な授業形態や活動が可能な開放的な空間構成を L 壁の巧みな配置によって作り上げ、伸びやかで開放的な教育の場を提供することに成功している。教室と連続したサーキュレーション空間は、生徒の自由な活動の場となっている。構造は、RC 造の L 壁と、バルコニーに設置された細い軸力柱の列柱、ボイドスラブによる梁型のない意匠性を高める構造によって成り立っている。また、表層に軟弱層があるため、杭基礎を採用し安全性を高めている。教育の場に相応しい計画を合理的な技術によって具現化し、「計画、構造、環境、設備および材料・工法技術」を優れた論理性を持って統合した設計がなされている。

開放的な空間とそれを形作る構造そのものが無駄のない「外部空間、内部空間の両面における造形」は、シンプルな解決方法によって良質な造形を達成している。温暖な地域に立地するため、風通しと採光を高める全開可能な開口部や、L 壁を 2 階の一部では屋根の上まで延長し、光と風の誘導装置として自然の力を活用している点は、「地球環境保全に対する配慮および建築物のライフサイクル」において、機器に頼らない解を取り入れていることが評価される。この空間構成と構造、折戸による外装の融合は、「設計全般にわたっての高度なオリジナリティ」と認められる。

学風をよく研究し、生徒達の開放的な教室空間、回遊できるサーキュレーション、廊下伝いにアクセスの容易な体育館、そして外部空間である中庭、運動場、植物の栽培場などへの容易な出入りを考慮している。また学年ごとに昇降口を設け、屋内外の出入りを活発にすることに成功しており、「社会性、歴史性、文化性から見た地域環境への適合性」を十分に具体化していることが認められた。

設計者の意図であった、「穏やかに空間を構成し、樹木の間伸びやかに開放的に場所を生み出すこと」を目指し、現在の日本の教育現場にも、フレキシブルに応答できる空間となる」は、十分に達成され、かつ意図通りに運用され活用されていることが認められる。地域の教育行政、教育者、生徒に優れた影響を与え、学校の主役である生徒が生き生きとし、次世代を育む環境作りに多いに貢献している。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。